

新撰 淡海木間撰 52 70 年前の学習機の引き出し

INFORMATION STATION 催し案内 2012~13年冬

MYBOOK 自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS サンライズ出版の新刊案内



特集

冬に行きたい滋賀の博物館

滋賀県博物館協議会  
30周年記念

淡海の博物館・美術館  
スタンプラリー 開催中

2012年10月1日~  
2013年2月28日

# 民具にさわって学ぶ体験学習が人気 伊吹山文化資料館

【米原市春照】

滋賀県最高峰の名山、伊吹山のふもとにある伊吹山文化資料館に訪れると、子供たちの歓声が響いていました。友の会会員の協力を得て、所蔵民具を活用して行われている体験学習には、岐阜県からも小学生が訪れています。

体験学習の「きな粉ひき」。炒った大豆を上の方から入れる係、臼を回す係を交互に受け持ち、最後に出来立てのきな粉を食べる。

あづま たけし  
[取材] 東 武司

滋賀県立大学人間文化学部

右は、資料館友の会会員の大橋 夫美さん



資料館の成り立ちを教えてください。  
高橋順之さん 平成9年（1997）から資料館づくり友の会会員の方などともに展示作業を開始し、翌年に開館しました。もとは伊吹町立春照小学校の分校だった建物で、最小限の改修ですませています。

1階は地域で使われていた民具類の展示が主ですが、地元出身の私も含めて昭和35年以降生まれの者はその民具自体にほとんどさわったことがない世代です。展示づくりの段階から参加いただいた友の会会員が、「ここには、これがないとあかん」と言っておき、翌週には必要な民具を持ってきてくださったりして、展示がとても充実したと思っています。

友の会とはどのようなものですか？

高橋 資料館設立のころから携わっていただいている地元の人たちです。当初は「資料館づくり友の会」として活動していましたが、開館後は「資料館友の会」として、団体向けの体験学習の手伝いをしていたり、館内の掃除、展示物の改修作業をしてもらったりしています。現在、展示している道具や人形も、友の会の人たちによって作られています。

体験学習の内容は？



↑収蔵庫の民具。学校の文化祭の演劇などに大道具・小道具として貸し出すこともある

住 所 米原市春照 77

連 絡 先 TEL・FAX 0749 (58) 0252

入 館 料 一般 200 円、中学生以下 100 円

開館時間 9:00～17:00 (入館は 16:30 まで)

休 館 日 月曜日、祝日の翌日

アクセス JR 近江長岡駅下車後、湖国バス「伊吹登山口行」、ジョイいぶぎ下車後、西へ 8 分



取材当日(11月14日(水))には、岐阜県から垂井町立若手小学校3年生22名(先生2名)が体験学習のために来館。「きな粉ひき(前ページ)」「かきもち焼き(1)」「アイロンかけ(2)」「縄ない(3)」の4つをグループごとに交替で体験



3



→友の会会長の藤田慶一さんが操作する足踏み縄ない機。手前の差し口にワラを差し込みペダルを踏むと、縄をなつて奥の胴に巻き取っていく



### 伊吹山文化資料館 学芸員 のりゆき 高橋順之さん

「言い方は悪いですが、動かせば、ガラクタが生き返ります。どうやってきな粉ができるか、出来立てのきな粉はどんな香りがするのかわかります。」

石臼の真ん中の棒をちょっと上げるとサイズの大きなものをひけるといった道具の仕組みも、私自身、自分で使ってみるまで知りませんでした」

展示資料の中で、これを見てほしいというようなものはありませんか。  
高橋 伊吹山周辺に豊富なモグサ(ヨモギの葉の裏の絨毛を精製したお灸の原料)関連のチラシ類は、地域の特色を表しているおもしろいと思います。伊吹小や春照小に通っていた私たちの世代は、夏休みの宿題に「葉草採集」があったんです。ジュウヤクやゲンノシヨウコを学校で集めて地元の家草屋さんで換金し、PTA活動などに利用されました。そうした「葉草の里」としての側面など、伊吹山周辺の自然や文化をテーマにした企画展示も行っています。

高橋 友の会会員が教える形で、小学生に昔の道具を使ってきな粉ひきや炭火アイロンの体験してもらっています。子供たちはかき餅づくりのような食べる体験が好きみたいですよ(笑)。  
—— 普通、展示されている民具類はさわってはいけないものですが。  
高橋 当館の来館者にも、「写真を撮ってもいいですか?」から聞かれます(笑)。「どうぞ、どうぞ。さわって動かしてもらってもかまいません」と答えています。  
—— 今日もち餅用に火鉢に火が起こしてあったので、小学生が入ってくるなり、「なんか臭いがする」って言っていました。  
高橋 そうそう、火鉢の「温とさ」はどのくらいか、実物でなければわかりません。  
—— 平日の小学生が体験学習をしている時に来館してもよろしいですか。  
高橋 ときどき参加する来館者もいらつしゃいますよ。12月はありませんが、1月2月には週2校ずつ程度、米原市と長浜市の小学3年生が来館しているので、日時を問い合わせてくださいからでも、飛び込みでもご来館ください。かき餅やきな粉ひきのようなすを見てもらえます。

高橋 友の会会員が教える形で、小学生に昔の道具を使ってきな粉ひきや炭火アイロンの体験してもらっています。子供たちはかき餅づくりのような食べる体験が好きみたいですよ(笑)。  
—— 普通、展示されている民具類はさわってはいけないものですが。  
高橋 当館の来館者にも、「写真を撮ってもいいですか?」から聞かれます(笑)。「どうぞ、どうぞ。さわって動かしてもらってもかまいません」と答えています。  
—— 今日もち餅用に火鉢に火が起こしてあったので、小学生が入ってくるなり、「なんか臭いがする」って言っていました。  
高橋 そうそう、火鉢の「温とさ」はどのくらいか、実物でなければわかりません。  
—— 平日の小学生が体験学習をしている時に来館してもよろしいですか。  
高橋 ときどき参加する来館者もいらつしゃいますよ。12月はありませんが、1月2月には週2校ずつ程度、米原市と長浜市の小学3年生が来館しているので、日時を問い合わせてくださいからでも、飛び込みでもご来館ください。かき餅やきな粉ひきのようなすを見てもらえます。



# 晴れれば冬の星の美しさに勝るものなし ダイニツクアストロパーク天究館

「例えば、クリスマスももともとは星のお祭です。ツリーの天  
辺には星がついてるでしょう」—— 駐車場から斜面を登った丘  
の上、滋賀県唯一の公開天文台・天究館を訪れると、高橋進館  
長のお話はこんな冬の星のエピソードから始まりました。

「多賀町多賀」

—— 天究館ができた経緯を教えてください。  
高橋進さん 天究館はダイニツクという会  
社の敷地内にある施設ですが、会社自体は  
繊維関係のメーカーです。天究館が完成し  
た当時の社長が、「子供の頃の夢は天文学  
者」というくらい星が大好きだったので、  
多賀工場の生産が軌道に乗ってきた時、日  
ごろお世話になっている地域社会の皆さん  
に恩返しをする、いわゆるメセナ（企業の  
芸術文化支援）の一環としてつくりました。

—— 高橋さんが、天究館の館長となられた  
きっかけは何ですか。

高橋 私はもともと、ダイニツクの東京本

社で営業をしていました。ただ、星好きで、  
個人的に天文観測などをやっていたんです。  
そんなある日、星好きの社長から、「オー  
ロラ見たくない？」と誘われて、カバン持  
ちでアラスカに行っただけです。しばらくし  
て、今度は「天究館の人手が足りないんだ  
よ。高橋くん、オーロラ見たよね」と言わ  
れまして（笑）。現在は、ダイニツクの総  
務の仕事のかたわらで天究館の仕事をし  
ています。

—— 天究館の博物館としての特色は？

高橋 従来の博物館は、展示物を眺めるだ  
けの場所というイメージがありますが、天



【取材】 山田航平

滋賀県立大学人間文化学部



毎週土曜日夜に行われる  
「天体観望会」のようす



↑誰もが星空を楽しめる定期観望会(2012年11月24日)

住 所 犬上郡多賀町多賀 283-1

連絡先 TEL 0749 (48) 1820

太陽観察会 毎週土曜日 午前11時～午後5時  
参加費／無料

天体観望会 毎週土曜日 午後7時30分～9時30分  
参加費／一般200円、小・中学生100円、  
幼児無料

アクセス JR彦根駅から車で15分



2



1



4



3



5

- 1 プレアデス星団 (すばる)
- 2 オリオン座大星雲M 42
- 3 天究館が発見した最初の小惑星「Taga」。2番目は「Biwako」、他に「Hikonejyo」や、「Nagahama」と名づけられたものもある
- 4 月面のクレーター
- 5 土星 (西谷輝昭氏 撮影)



## ダイニッカストロパーク 天究館 館長 高橋 進さん

「今年(2012)の5月21日(月)、金環日食の時は、予約制にしてウィークデーの朝だったのですが、それでも120名ぐらいいらっしゃいました。60cm反射望遠鏡を直接太陽に向けて燃え出しますので(笑)、その横にしているこの細長い望遠鏡(写真。投影盤に太陽を映し出して黒点などを観察する)や、ペランダの望遠鏡を使って観測しました」

→館所蔵品の一つ「トルカ隕鉄」。メキシコのメキシコ州トルカ地方で多数発見された隕鉄の一つで、100万年かけて温度が1度下がるくらいのゆっくりした冷却によってできる、ウイドマンステッテン模様が観察できる



高橋 天文という世界は、「晴れてこそなんぼ」なので、最も適したシーズンは夏から秋にかけてです。冬は寒くて、天気もすぐれない日が多い。でも、もし空が晴れれば、冬という季節はオリオン座やおおいぬ座などにたくさんの一等星がきらめく季節ですし、空の透明度も高いです。冬の晴れた日で、観望会をやっている日に来ていただけると、夏では楽しめない、とてもきれいな星が楽しめますよ。1人あたりの望遠鏡をのぞいていただく時間は、夏よりも確実に長いです(笑)。

最後に、冬という季節は天文的にはどうなんでしょうか。

高橋 親子連れが最も多いですが、最近はい若いカップルの来館も多いですし、50〜60代の年輩の方、子供の頃にアポロの月面着陸などに興奮したけれど、高価な望遠鏡を買うような経済的余裕がなかったという世代の人も増えてきていますね。天究館が開館しているのは原則、毎週土曜日だけなのですが、天気がよければ、夏休みは100人以上、冬でも20〜30人は来られます。

私だけでなく、天究館友の会(講座の講師なども担当いただくアマチュア天文家の人たち)と天究館星の会(小中学生も含む星好きの人たち)という2つの組織がボランティアで活動していて、観望会にかかわる様々なお手伝いをしていただいています。来館者はどのような方が多いですか。

天究館では「自分たちで見よう、体験しよう」ということを主眼に置いています。巨大望遠鏡を使って、昼間は太陽、夜は星を観察し、流星群のある日には、臨時の観望会を開くこともあります。観測を通して宇宙を知ること、地球という星のすばらしさと、地球の環境を知っていただきたいという思いで、天究館を運営しています。

# 戦争を寄贈資料と体験談で語り継ぐ 滋賀県平和祈念館

〔東近江市下中野〕

道の駅あいとうマーガレットステーションのすぐ近くに  
ある滋賀県平和祈念館は、平成3年の構想から20年の歳月  
を経て、平成24年3月に開館を迎えたばかりの新しい博物  
館。仕切りのない広々とした展示室で、滋賀県各地から集  
められた戦争関連の資料と体験談にふれることができます。



戦争体験者の当時の写真が並ぶエントランス

滋賀県平和祈念館

岸本 この館の特徴を教えてください。  
北村美香さん 全国に戦争関係の資料を扱った博物館は数多くありますが、この滋賀県平和祈念館は、滋賀県の方々の戦争体験に特化し、地域の戦争体験を次世代に語り継いでいく活動を行っています。長い準備期間の間に、寄贈いただいた資料は2万5000点を超えました。そういったモノとともに、戦争を体験された方など、約1300人の方から聞かせていただいた体験談をもとに展示を行っています。

それらの豊富な資料をなるべく多く公開できるように、年3回の企画展にあわせて展示品とレイアウトを変えています。

企画展は、年表などを用いた通史的な展示ではなく、特定のテーマを設け、それに関連したものを集める形にしています。現在（2012年秋）は「八日市飛行場」がテーマの企画展（12月22日まで）で、プロペラなどの部品から、飛行場と地元住民の関わりがわかる品々までいろいろなものをそろえました。

辻 どのような人の利用が多いですか？  
北村 県内各地の老人会や自治会、近隣の

→旧陸軍の航空機のプロペラ  
（東近江市・山田利治氏寄贈）

〔取材〕 岸本香歩（右）  
辻 優美（左）  
滋賀県立大学人間文化学部





↑この夏には、館主催で滋賀県内の戦争遺跡見学会が行われた。写真は、蒸気機関車を敵の攻撃から守るために国鉄が岩脇山（米原市）に設けた列車壕 写真提供：滋賀県平和祈念館

住所 東近江市下中野町 431 番地

連絡先 TEL 0749 (46) 0300

入館料 無料

開館時間 9:30 ~ 17:00

休館日 月・火曜日

アクセス 名神高速道路「八日市IC」から車で約10分 / JR 琵琶湖線彦根駅または近江八幡駅乗り換え、近江鉄道八日市駅からバスで約20分「愛東支所・診療所前」下車すぐ



3



1

1 入ってすぐの床は滋賀県の航空写真になっており、空襲被害の場所などを確認できる

2 相談カウンター

3 秋季企画展示「八日市飛行場—飛行場があった街—」。什器は車輪付きで簡単にレイアウト変更ができる

4 同展展示の一つ、八日市みやげ「航空せんべい」



2



4

### 滋賀県平和祈念館 学芸員 北村美香さん

「こうした施設は静かなイメージをお持ちかもしれませんが、展示を見ているうちにいろいろ思い出されて、館内はかなりにぎやかですよ。特に若い人が熱心に見ていると関心を持たれるようで、取材の途中で年配の方からお声がかかるかもしれません」



↑貸し出しされる資料の例。千人針（上）やゲートル（右下）などすべて本物で、持ち主の名前を確認できるものも多い。中央の花びら状のものは、陶器製の手榴弾

小・中学生の団体利用が多いです。遠方で来館が難しい小・中学校には、写真パネルや資料の貸し出しを行ったり、職員が資料を持って学校に向く出張授業も行っています。

夏休み時期には、小学校の自由研究のために、おじいさんとお孫さんが連れだって来られている姿をよく見ました。

**岸本** 私たちは大学での専攻が考古学なのですが、寄贈品以外に地面から出土したものなどもありますか？

**北村** 戦争の出来事の中には、発掘調査でわかることもあります。例えば、シートベルトのメーカーとして有名なタカタ（彦根市）の敷地内から焼夷弾が出土し、滋賀県埋蔵文化財センターが調査されました。戦中は飛行ベルトやパラシュートをつくっていたので標的になったのです。出土した焼夷弾は、いずれ当館でも展示できればと思っています。

また、終戦時に記録類が処分されてしまったために、口伝えでしか存在が確認できていなかった木曾飛行場（多賀町）についても、古代の遺物が多数出た木曾遺跡の発掘をしている最中に遺構が確認されました。

**辻** 私たちがゼミをとっている県立大学の中井均先生が、来年の平和学習講座では講師をされますね。

**北村** 1月から毎月1回行う学習講座「滋賀県の戦争遺跡」（全4回）「10ページ催し案内参照」で、中井先生には第1回と第4回をご担当いただきます。

**岸本** 参加者が高齢の方が多そうですが、私たちでも参加できますか？

**北村** 年齢制限も参加資格もありませんので、大丈夫ですよ（笑）。興味のある回だけでもぜひ来てください。

# 淡海の博物館・美術館 スタンプラリー

2012年10月1日～2013年2月28日

主催：滋賀県博物館協議会

協賛：公益財団法人ハンパ文化振興財団、株式会社六本館、サンライズ出版

## 参加方法

お近くの参加館でスタンプラリー帳（写真1）を入手し、以下から選んでご参加ください。

- 応募用紙に5館分を集める（写真2の部分を使用）
- スタンプラリー帳に全館分を集める（写真3の部分を使用）

## 地域博物館・美術館マスター

各地域内（大津15館・湖南11館・甲賀9館・東近江11館・湖東7館・湖北19館・湖西9館）の全参加館のスタンプを集める。

➔ 「地域博物館・美術館マスター認定証」を進呈します。

## 淡海博物館・美術館マスター

滋賀県内の全参加館（81館）のスタンプを集める。

➔ 「淡海博物館・美術館マスター認定証」を進呈します。

すべての博物館・美術館のスタンプを押し終えたら、応募用紙の記入欄にお名前、ご住所、電話番号、ご感想等を明記の上、押印されたスタンプラリー帳を下記の協議会事務局まで封書でお送りください（切手代は応募者負担）。

## 抽選および当選発表

応募締切後に抽選を行い、当選者にミュージアムグッズなどのプレゼントを発送します。発表は、発送をもってかえさせていただきます。

## 応募締切

2013年2月28日（当日消印有効）

## お問い合わせ・送付先

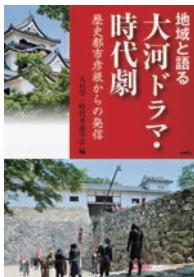
〒525-0001 滋賀県草津市下町町 1091  
滋賀県立琵琶湖博物館内  
滋賀県博物館協議会事務局  
TEL 077-568-4811  
<http://www.lbm.go.jp/kenhaku/>



地図には滋賀県博物館協議会加盟館すべて（88館）を記載しています。  
スタンプラリーに参加していない館（緑文字）もありますので、ご注意ください。







## 地域と語る大河ドラマ・時代劇

—歴史都市彦根からの発信—

大石学・時代考証学会 編

A 5判並製本 総256頁 定価2625円

**発売中** ひこね市文化プラザ TEL0749(26)8601

NHK大河ドラマ第1作の舞台・彦根で、佐野元彦氏(NHKドラマプロデューサー)、長塚京三氏(俳優)らを交え、地域と大河ドラマ・時代劇の関わりを論じたフォーラムの記録。



## 古代の芹川、犬上川扇状地と多賀信仰

小菅一彦 著

A 5判並製本 総124頁 非売品

**お問い合わせ先** 犬上郡多賀町敏満寺(著者)

古代における犬上川・芹川の扇状地開発とそれに伴う多賀神社信仰の成立過程について、カラー図版を交えながらわかりやすく解説する。(2012.12.13刊)

## 新選組 試衛館の青春 上・下

松本匡代 著

四六判並製本 総528頁/404頁 定価各1995円



**書店にて発売中**

幕末を駆け抜けた新選組の結成150年である2013年を前にして、隊士らの若き日々をさわやかに描くポップな時代小説、登場。土方歳三、沖田総司、斎藤一(山口一)らの青春群像、全40話のオムニバス短編集。

## マイメモリー2 画集 上野文子

上野文子 著

B 4変形並製本 総88頁 非売品

**お問い合わせ先** 長浜市富田町211(著者)

元小学校教員の著者が退職後、約20年間に描いた油彩、水彩、スケッチなどの集大成。作品群から精一杯生きることの大切さが伝わってくる。(2012.12.20刊)



## 山村大好き家族 ドタバタ子育て編

オノミユキ 著

A 5判並製本 総104頁 定価1260円

**書店にて発売中**

ダンナは林業、子どもが3人、限界集落に移住した新割り大好き主婦・オノミユキ。

毎日新聞、MOH通信、朽木観光協会のHPに掲載された、山村ならではの抱腹絶倒の日々の暮らしを綴る漫画とエッセー。



## マイメモリー3 美術と文子

—絵と美術教育—

上野文子 著

B 4変形並製本 総118頁 非売品

**お問い合わせ先** 長浜市富田町211(著者)

学生時代から、美術教育に携わった小学校教員時代、そして退職後の作品、新聞記事のスクラップなど、絵とともに歩んだ70年を振り返る。(2012.12.20刊)



## 湖北残照(文化篇)

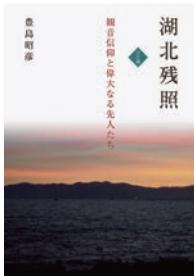
—観音信仰と偉大なる先人たち—

豊島昭彦 著

A 5判並製本 総404頁 定価1995円

**書店にて発売中**

国宝十一面観音や、小堀遠州、雨森芳洲、豊臣秀次ら湖北から湖東の先人たちが遺した文化のきらめき一。〈歴史篇〉で戦国武将に肉薄した著者による待望の〈文化篇〉。



## 句歌日記 さらに歩く

小菅照美 著

A 5判上製本 総204頁 非売品

**お問い合わせ先** 犬上郡多賀町多賀1328(著者)

『歩く』『なお歩く』に続く平成23年度分の短歌と俳句を収録。「何故に朝の空気は気持ちよし一日経てば濁れるものを(12月7日(水曜日))」(2012.12.25刊)



おうみ  
淡海文庫49

## ええほん 滋賀の方言手控え帖

中山敬一 著

B 6判並製本 総160頁 定価1260円

書店にて発売中

ええほん、きゃんす、たい、言うてらる……独自の味わいをもつ滋賀の方言約230の意味と使用例を収録。発話のシチュエーションがわかる四コマ漫画や古典文学の滋賀方言訳もついた、県民と移住者・旅行者必携の方言本。



近江学研究紀要

## 近江学 第5号

成安造形大学附属近江学研究所 編著

A 4変形並製本 総96頁 定価1890円

書店にて発売中

「木と暮らし」を特集。琵琶湖の木造船を生み出す船大工へのインタビュー、木地師の里「小椋谷」探訪、木板に願いを込める絵馬や集落の境界となる勧請縄に関する論考など。



## 近江商人のビジネス哲学

童門冬二 著

四六判並製本 総184頁 定価1680円

書店にて発売中

近江に残る「日本の心」を柱に著者独特の歴史観の中から、いまこそ学びたい近江商人のビジネス哲学を追求。世間よしに結びつく「自利利他公私一如」の精神こそが近江商人共通の精神である。

没後三十年  
湖北の画人 沢宏靱

長浜城長浜城歴史博物館 編

B 5判並製本 総112頁 定価1995円

書店にて発売中

長浜出身で昭和6年帝展に『機』が初入選、戦後は官展を離れ「創造美術」の結成に参加、常に秀作力作を発表し続けた日本画家・沢宏靱の晩年までの作品を紹介。



## 食べ伝えよう滋賀の食材

滋賀の食事文化研究会 編

B 6判並製本 総140頁 定価1890円

書店にて発売中

中日新聞滋賀版の連載を単行本化。日野菜・山田大根などの伝統野菜、アユ・ビワマスなどの琵琶湖の魚貝類、食べ親しまれた果物など、滋賀の環境が育んだ豊かな季節の食材66品目をオールカラーで紹介。



## 石田三成からの手紙

—12通の書状に見るその生き方—

中井俊一郎 編

B 6判並製本 総120頁 定価1995円

書店にて発売中

上司に反対意見を述べた忍城攻め、情報戦を制した賤ヶ岳の合戦、長期戦を画策していた関ヶ原の合戦など、三成本人の書状からその生き方に迫る、戦国の人生読本。



## 表紙写真

## 滋賀県平和祈念館1階展示フロア

旧愛東町役場だった建物を改修。戦争中の滋賀県内の出来事や、地域の戦跡、風景の移り変わりから身近な出来事を知る基本展示。テーマごとに展示された体験談や資料を見て、知識や考えを深める企画展示。直接資料に触れたり、調べることができる収蔵展示や学習相談カウンターがあり、仕切りの壁などはない。

写真手前の基本展示の床には、空襲地点などを示す滋賀県の衛星写真があり、柱に書かれている情報の位置関係がわかる。

Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

## お申し込み先

〒522-0004

滋賀県彦根市鳥居本町655-1

サンライズ出版株式会社

Duet 編集部

TEL (0749) 22-0627

FAX (0749) 23-7720

(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。

<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

今号で、県内の博物館にお邪魔した学生は、いずれも滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科の3回生で、考古学や民俗学を勉強しています。研究室での打ち合わせ中に、またたく間に担当の学生をお決めくださった同大学の市川秀之先生、ありがとうございました。紹介した館の他にも、個性的な企画展や活動を行っている館がまだまだあります。行楽シーズンからはずれた冬は、展示をじっくりのんびり見て回るのに最適かもしれません。次号から本誌は、滋賀県博物館協議会との連携で、県内博物館・資料館・美術館の諸活動を幅広く紹介する誌面にリニューアルします。ご期待ください。